

# 「アラブの春」の将来

平成25年3月



公益財団法人日本国際問題研究所  
The Japan Institute of International Affairs

## は し が き

本報告書は、外務省より平成24年度国際問題調査研究・提言事業費補助金を受けて、『アラブの春』の将来」というテーマのもとで、1年間当研究所が行ってきた研究活動の成果をまとめたものです。

2011年1月から2月にかけて、長期間にわたって続いてきたアラブ諸国の権威主義体制を大規模な民衆デモによって打倒しようとする運動、いわゆる「アラブの春」は、チュニジアとエジプトの独裁的な大統領を短期間のうちに退陣に追い込みました。その後、同様の現象がリビア、シリア、イエメンへと広がりましたが、これらの国々では短期間で権威主義体制が倒されることはありませんでした。リビアは一時的に内戦状態に陥り、国際部隊の軍事介入の果てにカザーフィーを殺害するに至ったものの、国内の安定の回復と民主的な新体制の構築は未だ完了していません。イエメンにおいては、反体制派と政権の衝突が長く続き、湾岸協力会議（GCC）の調停案を受けて騒乱は一応の終息を見ましたが、混乱の火種は消えていません。シリアにおいては、反体制デモとアサド政権の抗争が泥沼の内戦となり、約2年にわたって大量の犠牲者と難民を出してきました。

一方、権威主義体制の打倒に成功したチュニジアとエジプトにおいては、選挙によって政権に就いた穏健イスラーム主義勢力に対して、世俗派と厳格なイスラーム主義勢力の双方が批判を強めており、安定した民主的政権の樹立や社会改革・経済再建が順調に進んでいるとは言えません。潤沢な原油収入を持つ湾岸諸国は、バハレーンとオマーンで発生したデモを協力して抑え込み、表面的には平穏を保っていますが、国内に様々な矛盾や不満を抱え、君主・首長体制に対する反対運動が起こる可能性は否定できません。

カリスマ的指導者に従うのではなく、衛星メディアやインターネットを活用して普通の人々の共感が広く結びつくことで独裁者を打倒しようとする運動は、確かに、民意を無視した抑圧的な権威主義体制の存続を不可能、あるいは、困難にしました。その一方で、様々な主義主張と利害をとりまとめ、安定的な民主的体制を築くことも容易ではありません。民衆デモによる権威主義体制排除の動きは、中東地域に民主主義と安定を両立させ、多くの人々が公正と感じられる社会の構築に向けた長い道のりの出発点に過ぎなかったのです。

本研究プロジェクトは、上述の問題意識に基づいて、「アラブの春」と呼ばれる一連の政治変動が中東地域にどのような影響を与え、なお進行中の変動がどのような現状をもたらしたか、加えてその将来を展望することを目指して実施されたものです。その中では、「アラブの春」の舞台となっている諸国の中から、エジプト、シリア、イエメンの現状と背景を分析するだけでなく、これらの諸国に様々に関与しているトルコと湾岸諸国の動向

や、中東地域における最大の懸案であるパレスチナとイスラエルの和平問題に及ぼす影響もあわせて考察しました。さらに、アラブ諸国と同様に住民の大半がイスラーム教徒であり、1990年代にやはり民衆運動によって民主化を成し遂げたインドネシアの事例にも目を向け、比較政治学的な観点からの分析も試みました。その成果は、「アラブの春」と一括されながら、実は非常に複雑な内情を持つ諸状況を実証的・総合的に描き出し、世界と日本の安定と経済的繁栄にも大きな影響を及ぼす中東地域が向かう方向を示すことで、日本の中東地域に対する外交政策の策定に有益な知見を提供するものになったと言えます。

なお、ここに表明されている見解は全て各執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。しかし、この研究成果が日本の外交政策を考える上で意義ある一助となることを心から期待します。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力頂いた執筆者各位、その過程でご協力頂いた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成 25 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 野上 義二

## 研究体制

主査：	立山 良司	防衛大学校教授
委員：	池田 明史	東洋英和女学院大学教授
	今井 宏平	中央大学大学院法学研究科
	鈴木 恵美	早稲田大学准教授
	辻上 奈美江	東京大学大学院特任准教授
	松本 弘	大東文化大学教授
	見市 建	岩手県立大学准教授
委員兼幹事：	浅利 秀樹	日本国際問題研究所副所長兼主任研究員
	森山 央朗	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	鈴木 涼子	日本国際問題研究所研究助手

(敬称略、五十音順)

## 目 次

報告書要旨	1
「アラブの春」の将来：政策提言	7
序 章 「アラブの春」2年目の動向	立山 良司……15
第1章 エジプト社会の二極化にみる移行プロセスの考察 —憲法宣言を中心に—	鈴木 恵美……27
第2章 シリア「内戦」とイスラーム主義	森山 央朗……41
第3章 湾岸諸国の「アラブの春」：デモの波及、外交 そしてビジネスチャンス	辻上 奈美江……73
第4章 イエメンとオマーン —「アラブの春」のなかの位置づけ—	松本 弘……89
第5章 アラブ諸国の政治変動に対するトルコの影響	今井 宏平……103
第6章 インドネシアにおける民主化の経験とイスラームと 政治の現在	見市 建……123
第7章 「アラブの春」と中東国際関係 —原理的問いと現実的展望—	池田 明史……135
第8章 体制移行期における内戦と「保護する責任」：リビアと シリアの比較	立山 良司……147